

# クロモジ採取後の保存方法による 精油抽出率の違いについて

福島県林業研究センター 森林環境部

部門名 林業—緑化—増殖・繁殖

担当者 岡野達也

## I 新技術の解説

### 1 要旨

本県では、アロマ用精油の原材料としてクロモジ採取が南会津地域を中心として行われているが、資源の枯渇が懸念されている。精油の効率的な抽出方法を検討するため、クロモジの枝葉を採取してから抽出するまでの保存期間ごとに精油抽出率を比較した結果、採取してから2~3週間程度は含水率の減少とともに精油抽出率も2割程度減少することが明らかとなった。(図-1)

採取後の保存方法によって抽出率減少を抑制することが可能か検討するため、「密封保存」または「減圧保存」と従来の保存方法である「自然乾燥」を比較したところ、3週間後の精油抽出率は「自然乾燥」のものよりも「密封保存」及び「減圧保存」したものの方が2~3割程度高い結果となった(図-2)。また「減圧保存」は携帯機器を用いて現場で行うことが可能であり、枝葉を圧縮することで持ち運びも容易に行うことが出来た(図-3)。

- (1) 郡山市の広葉樹林において8月にクロモジの枝葉を採取し、その後採取したクロモジを自然な条件で乾燥させ、それぞれ採取翌日、3日後、1週間後、2週間後、3週間後、2ヶ月後に水蒸気蒸留により精油を採取した。抽出された精油重量を測定し、試料重に対する抽出精油重の割合を示す精油抽出率を算出し、期間ごとに比較した(図-1)。
- (2) 10月にクロモジの枝葉を採取し、「自然乾燥」「密封保存(ビニール袋に入れて縛り、冷蔵保存)」「減圧保存(減圧パックで圧縮し、冷蔵保存)」の3種類の方法で保存した。減圧パックによる圧縮は携帯できる機器を使用し、採取後すぐに現場で行った。3週間程度保存したのちにそれぞれ水蒸気蒸留を行い、抽出された精油重を測定して精油抽出量を算出し、保存方法ごとに比較した。

### 2 期待される効果

- (1) 減圧保存を行うことで精油抽出率の低下を抑えることが出来、持ち運び及び保管も容易になる。

### 3 活用上の留意点

- (1) 採取する季節により精油抽出率が変化するため、時期により結果が異なる可能性がある。

## II 具体的データ等

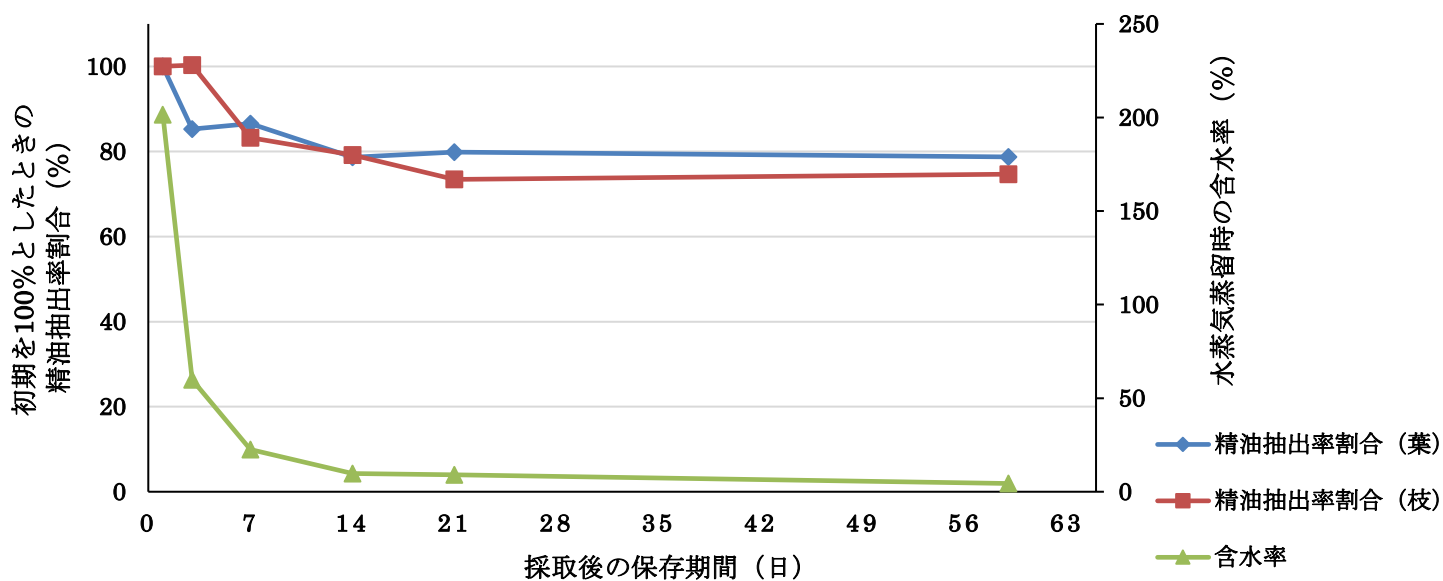


図-1 採取からの保存期間別精油抽出率割合及び含水率 (%)

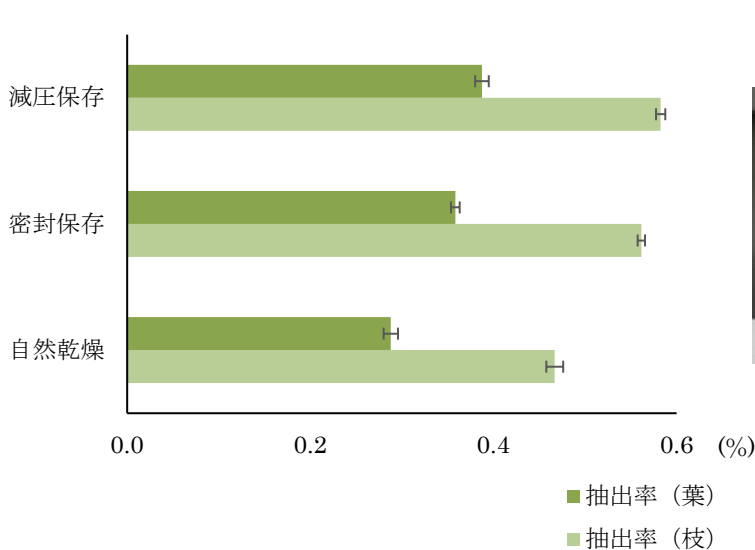


図-2 保存方法別精油抽出率 (%)



**減圧パックによる圧縮**  
 持ち運び効率が良く、保存スペースも節約できる。

図-3 真空圧縮時のクロモジの状態

## III その他

### 1 執筆者

岡野達也

### 2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和元～令和5年度
- (2) 研究課題名 広葉樹の増殖に関する研究

### 3 主な参考文献・資料

- (1) 大高千怜、小川秀樹、久保智裕、齋藤直彦、小野武彦 (2023) クロモジの部位別の精油抽出率および精油量割合について 東北森林科学会誌 29 (1) 9-13